

学校運営協議会活動状況報告書

1 令和7年度の活動状況

(1) 協議会の開催

回	日 時	人数	主な議事、活動
1	7年6月3日 14:00～15:30	16	・学校運営協議会委員の委嘱、会長の選出 ・茨城県立特別支援学校「学校運営協議会」設置要項 ・協議会の年間予定 ・昨年度の取り組みについて ・防災の取り組みに対する基本方針の確認
2	7年7月17日 14:00～15:30	12	・「語り部活動」「川のがっこう」の実施報告および成果・課題の共有 ・今後の取り組みに対する意見聴取
3	7年10月30日 14:00～15:30	13	・「もし活Day、もし泊、もし活ラリー」の活動報告と意見交換 ・次年度に向けたグループ別意見聴取
4	8年1月22日 14:00～15:00	13	・授業参観および学校の取り組みの進捗説明 ・1年間のまとめと次年度に向けたアンケート、意見聴取

(2) 協議会から出された主な意見

- 「もし活」のネーミングについて：「防災」を「もし活」と呼ぶことで不安を払い、楽しみながら学ぶ姿勢は現代に合っている。
- 子ども主体の発信：子どもが先生になって地域の人（特に高齢者）に新しい防災知識を伝える機会を設けるべき。児童生徒の「推しもし活グッズ」を広報誌や動画で紹介するアイデアも出された。
- 実践的な訓練の提案：正常性バイアスを打破するため、大人が動けない設定や障害物がある設定での「イレギュラー避難訓練」の実施を検討してもよい。
- 地域・保護者との連携 保護者の知識もアップデートする必要がある、子どもと一緒に体験活動を行うことが有効。また、地域のシニアクラブ等との連携拡大も期待される。

2 学校の取組

- 「川のがっこう」：川の恵みと危うさを体験。流水体験を通じて水への恐怖心を緩和しつつ、危険な箇所には「近づかない」ことの重要性を指導した。
- 「もし活Day、もし泊、もし活ラリー」
 - ・もし活Day：第一発見者としての対応や、役割分担を学ぶ活動を実施した。
 - ・もし泊：避難所生活を体験し、水やトイレの確保、初期対応などのリアルな課題に取り組んだ。
 - ・もし活ラリー：上小川小学校の児童とクイズ作成やコラボチャレンジを行い、交流を深めた。
- 成果：これらの活動を通じて、子どもたちが「できた！」という自信を持ち、「自分の命は自分で守る」（自助）ことや仲間と協力する姿（共助）が見られた。また、メディアでも取り上げられ、反響があった。

3 その他

- 持続可能な体制構築と「共助」の推進：学校と地域の課題を共有し、解決に向けて協働する体制の構築を継続する。次年度は、これまでの活動で得られた知恵を生かし、地域とともに取り組む持続可能な防災教育の体制を整えることを目標とする。
- 児童生徒を主体とした地域への啓発活動：子どもたちが「防災の先生」となり、新しい知識や情報を地域住民へ伝える機会をつくる。
- 地域コミュニティとの多角的な連携拡大：上小川シニアクラブ等の地域の方とのつながりを広げ、いざめし（非常食）試食会など、地域とともに作る防災に関する行事を検討する。
- 課題と実践的シミュレーションの導入：より具体的かつ実践的な訓練を実施し、地域や保護者と共に行うことで、防災意識のさらなるアップデートを図る。